

第1学年 道徳学習指導案

日時

場所 1年2組教室

授業者

1 主題名 いのちを考える (3)

2 資料名 決断! 骨髄バンク移植第一号

3 主題構成表

■内容項目

D- (19) 生命の尊さ

生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。

■価値の分析

- ・生命あるものは互いに支え合って生きている。支え合う中で生命はつながり、関わり合う連続性をもつ。このことを認識することを通して、生命はかけがえのないものであり軽々しく扱ってはならないという態度が生まれる。
- ・中学生のこの時期は、互いに支え合い、関わり合うことの必要性は理解している。その一方で、関わりへの弱さから、より深く関わり支え合うことのよさが経験できていないことがある。
- ・1・2時間目では、自分自身の生命の大切さについて考えた。本時では、生命あるものは互いに支え合って生き、生かされているという意識をもたせ、自分の生命と他の生命が関わり合う連続性を持つからこそ、自分の生命も他の生命も尊重する心情を育てたい。

■内容項目から見た生徒の実態

- ・自己や周りの生命が有限なものであり、大切であるということを理解している生徒は多い。
- ・生命は大切にすべきと理解をしても、安易に仲間の生命を軽んじるような発言をしてしまう生徒や、自己の生命を卑下するような発言をしてしまう生徒もいる。
- ・自分自身の生命について考えられるが、生命を連続性のあるものとして考えられる生徒が少なく、自分だけのものと考えてしまう生徒もいる。

■要因

- ・生命の大切さについては、これまでの生活や学習を通して理解している。
- ・ゲームの普及により、キャラクターが生き返るシーンが多く、死を軽視しがちである。
- ・身近な生物や人の死に向き合ったことがある生徒が少なく、生命の有限性や連続性を経験として実感することができないでいる。

■資料の分析

- ・主人公の田中さんは、以前登録した骨髄バンクから、血液の適合を告げられる。骨髄の提供を迷いながらも決断し、自分の生命が骨髄提供を通してつながっていくことを実感するという内容である。
- ・田中さんは、手術が近づくにつれて恐怖と使命感の間で心が揺れるも、恐怖を乗り越え骨髄の提供を決断する。自己の生命と同じように、他の生命を大切にしたいと思う田中さんの気持ちに共感させたい。
- ・骨髄の提供を迷う中で、自分の生命は他の生命につながっていることに気付いた田中さんの姿から、自己の生命は単独的なものではなく、他の生命へとつながっていく連続性のある尊いものであることを実感させ、自己の生命を大切にするとともに、他の生命を大切にすることを育みたい。

■ねらい

悩みながらも自分の骨髄を提供した田中さんの姿から、人が互いに支え合って生きていくことの大切さを理解し、自他の生命を尊重しようとする心情を育てる。

■展開の構想

- ・骨髄バンクについて知っているかどうかを問い、価値の方向付けをする。
- ・始めは提供する意欲にあふれていたが、次第に家族の反対や手術のリスクから不安になる田中さんの心情について考え、他の生命を救うことができるが、自分にリスクがある場合について考える。
- ・それでも提供することを決断した田中さんの心の内を考えインタビュー動画を視聴することで、生命の大切さや生命のつながりについて気付くことができる。
- ・生命を大切にすることについて改めて考え、自他の生命の大切さに気付き、今後どのように生活していくとよいかを考える。

■基本発問 (◎中心発問)

- 骨髄バンクについて知っていることはあるか。
- 自分が田中さんの立場だったら、心の中は「提供する」「断る」という2つの気持ちでどのようになるだろうか。
- ◎田中さんはどうして「提供する」と決心することができたのだろうか。
- 今日の授業を通して「いのち」についてどう考えたか。

4 道徳の時間(本時)と他の教育活動との関連

<場の内容・ねらい>

■学級活動

「人権集会に向けて」

- ・これまでの自分たちの学校生活について振り返ることを通して、自分を見つめ直し、どのように自分や仲間を大切にしていくなきかを考える。

■道徳の時間

「あなたはひかり」

内容項目 D- (19)

- ・自分自身の「いのち」について多面的・多角的に考え、「いのち」の大切さを自覚し、前向きに生きようとする態度を育てる。

「いのちって何だろう」

内容項目 D- (19)

- ・「いのち」の尊さを守るためにはどのように考えていくかについて理解を深め、大切にしようとする心情を育てる。

■道徳の時間

「決断！ 骨髄バンク移植第一号」

内容項目 D- (19)

- ・悩みながらも自分の骨髄を提供した田中さんの姿から、人が互いに支え合って生きていくことの大切さを理解し、自他の生命を尊重しようとする心情を育てる。

■学校行事

「人権集会」

- ・北辰の誇りや仲間との関わりについて考える活動を通して、人権の五観点や互いのことを大切にし、支え合って生きていくことよきに気付き、自他のかけがえのない生命を尊重する態度を育てる。

■日常生活

<学習>

- ・先を見通し、意欲的に学習したり、仲間と共に協力して一つの課題に向かったりする中で、互いに協力し合い、支え合いながら学習に取り組む。

<日常生活>

- ・人権を大切にする姿を価値付け、互いに支え合い、生活しようとする態度を育てる。
- ・学級の植物の水やりなどを行うことを通して、学校の緑化に努め、生命を大切にすることを育てる。

<給食>

- ・生命をいただくことへの感謝の気持ちをもって食事をする。

<生活の記録>

- ・毎日の生活の記録の中から、仲間との支え合い、生命の尊さについて触れ、価値を共有する。

<生徒の意識>

- ・中学生になり、新たな環境で仲間と関わり合いながら様々な活動に取り組んでいる。
- ・自分や仲間をどのように大切にしていこうとしたい。

- ・自分自身が大切な存在だからこそ、「いのち」の大切さを考えた生活をしていきたい。
- ・何歳でも死は無縁のものではなく、「いのち」はかけがえのないものだから、感謝の気持ちをもっているいろいろなことに挑戦していきたい。

- ・自分自身の「いのち」だけではなく、他の「いのち」も同じように大切にしていきたい。
- ・自分自身の「いのち」を大切にすることが他の「いのち」を大切にすることにもつながっていく。

- ・人権の五観点を大切にして自分も仲間も大切にし、互いに支え合いながら生活をしていきたい。
- ・「北辰の集い」に向けてよりよい北中学校を目指すために、人権の五観点を意識し、互いを尊重し合うことを大切にしていこう。

<指導・援助>

- ・仲間の思いを知り、交流することを通して、互いのことを大切にしたり、支え合ったりすることについて考えさせる。

- ・自分自身の「いのち」はかけがえのないものであり、自分の「いのち」をいとおしむ心情をもつことができるようにする。
- ・「いのち」はかけがえのないものだからこそ、いろいろなことに挑戦していくことが「いのち」を大切にすることでもあると気付かせたい。

- ・田中さんが、提供することへの恐怖と葛藤しながらも、どうして提供する決心ができたのかを考えられるようにする。
- ・他の生徒と考えを交流することで、自分自身の生命が他の生命へとつながっていくという考えが深められるようにしたい。

- ・人権の五観点を大切にしなが、互いのことを考え合い、支え合おうとする姿を価値付ける。
- ・支え合い、関わり合いを大切にし、行動に表せる集団を目指す。

【北中学校 人権の五観点】

行為

言葉

礼節

責任

呼应

5 本時の展開

	基本発問と予想される生徒の反応	指導・援助
導入	<p>1. 骨髄バンクについて知っているかどうかを問い、価値の方向付けをする。</p> <p>○骨髄バンクについて知っていることはあるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白血病の治療に使われる骨髄を提供すること。 ・名前は聞いたことはあるけど、どんなものかは分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「骨髄バンク」について全く知らない生徒がいると考えられるので、教師が補助的に説明を入れ、白血病や骨髄バンクについて簡潔に理解できるようにする。
展開前段	<p>2. 資料「決断！骨髄バンク移植第一号」を読み、話し合う。</p> <p>○自分が田中さんの立場だったら、心の中は「提供する」「断る」という2つの気持ちでどのようになるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「提供する」気持ちが大きいと思う。自分が骨髄の提供をすることで人の「いのち」を救えると思うから。 ・「提供する」と「断る」で悩んでいると思う。命を救いたいけれど、自分の「いのち」に何かあったらどうしようという思いがあるから。 ・「断る」気持ちが大きいと思う。太い針を10回刺すのはすごく痛そうだし、よく知らない相手のために自分の命を危険にさらすことはできないと思ったから。 <p>◎田中さんはどうして「提供する」と決心することができたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の息子に「お父さんは、人の役に立つんだ。」と言ったときの息子たちの顔を思い出したから。 ・迷いもあったと思うけど、自分の「いのち」も他の人の「いのち」も同じ「大事ないのち」だと考えて、骨髄の提供を決心できたのだと思う。 ・怖いという気持ちで自分が逃げてしまったら、自分が救えるはずだった「いのち」を潰してしまうことになると思ったから。 (田中さんのインタビュー動画を見る。) ・田中さんは、怖いという気持ちに負けず、提供して橋本さんを救うことができたとすごいと思った。 ・田中さんの話を聴いて、「断る」から「提供する」に気持ちが変わった。怖いという気持ちはあるけれど、自分の「いのち」と同じように他の人の「いのち」も大切にしたいと思ったから。 ・田中さんが勇気をもって提供したからこそ、橋本さんの元気な姿を見ることができてよかったと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・田中さんの揺れる心の中を想像しながら、資料で「すごい」や「どうして」と感じたところに線を引きながら聴く。 ・自分が田中さんの立場だったらどうするかを考えることで、資料を自分に置き換えて考えられるようにする。 ・「提供する」気持ちが大きい生徒と「断る」気持ちが大きい生徒など、多様な考えがあることに気付かせる。(タブレット使用) ・自分の考えをワークシートにメモし、それをもとに発表ができるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価の視点】 骨髄提供を決心したときの田中さんの気持ちについて、自分と違う立場や感じ方、考え方を交流することを通して、人が互いに支え合って生きていくことの大切さを理解している。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー動画を通して田中さんから、自分の骨髄を提供することを決断するに至った理由、そのときの思いなどについて知る。 ・田中さんには、提供を決めたときの気持ち、後に患者である橋本さんと固い握手を交わしたときの気持ちについて話していただき、生命のつながりの大切さについて考えを深めさせる。 ・自分の立場に置き換えて話ができるように、助言をする。
展開後段	<p>3. 本時の学習を振り返る。</p> <p>○今日の授業を通して「いのち」についてどう考えたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の「いのち」だけでなく、他の人のいのちも「大事ないのち」であり、自分の「いのち」と同じように大切にしていきたいと思った。 ・自分の「いのち」が誰かの「いのち」を救うこともあるのだと思った。自分の「いのち」が誰かにつながっていったり、誰かの「いのち」が自分にもつながったりするのだと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時考えたことを踏まえて、生命の大切さを実感し、自分の生命は他の生命につながっていくこと(連続性)や、生命は互いに支え合って生き生かされていることを実感し、自分や他の生命を大切にすることはどういうことかを考え、記述させる。
終末	<p>4. 田中さんから北中学校の生徒に向けた「生命の大切さ」についてのインタビュー動画を視聴する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・北中学校の卒業生として、今の北中学校の生徒に向けた思いを交えて話していただく。